

学校だより巻頭言 「学校のあり方」について考える

城端中学校 校長 山崎 洋

最近、「南砺市の小中学校の統合についてどう思いますか？」と質問されます。本校においても、PTAの常任委員会や3年生の社会科（公民）の授業、総合的な学習の時間の「南砺市の課題」のひとつとして取り上げられ、議論しています。

先日もこの話題の中で「学校の統合は誰を中心に考えればいいのですか？」と質問され、かなり返答に苦慮しました。その方は続けて、「この統合はどの立場で考え、それぞれの立場で考えたときに、どんなメリットやデメリットがあるのですか？僕たちは、親として考えればいいのか、こどもの立場で考えればいいのか、それが分からないので、良いも、悪いも、判断できないのです…」とおっしゃいました。

私自身は、「こども中心」と思いながらも、どうしても「教師の立場、そして教師の眼、親の眼」でこの統合について考えてしまいます。しかし、「行政の眼」「地域の眼」「経済の眼」など、見方によって様々な意見があります。

そこから議論が始まりました。例えば、「大勢の中で学ぶと切磋琢磨されてよい」「少数だと目が行き届いてよい」「学校を統合すれば予算が削減される」「統合の準備で多くの予算が必要になる」「統合すると過疎化が加速する」「統合すると新しいコミュニティができる」「今の時代に合った学校の在り方」「伝統的な学校の役割と在り方」「通学の時間」「送迎の問題」等、様々な意見を交わしました。結論、どちらを選んでもメリット・デメリットがあります。

最後は、「そもそも統合する必要があるのか？」という話になり、その必要性について議論しました。さらに、南砺市の将来の展望や、経済活動、学校予算、社会的コミュニティづくりを視野に入れた議論、「生徒の数が減り続ける予想だが、どうすることもできないのか、増やす方法はないのか。」という内容にまで議論が及びました。

まだまだ、多くの視点があると思いますが、議論しないと新たな視点は生まれません。「これから子育てをする若い人にこそ任せて」という思いや、「こうあるべき」という先入観を取り払って、自分自身も、地域を担う一人として、「こどもを中心としたよりよいあり方」となるように、意見交換していきたいと考えています。そして、私たち教師は、学校がどのような形になろうとも、「もてる力を全て発揮して、将来の南砺市を担うこどもたちの成長のために努力したい。」と考えています。今後とも、本校の教育活動にご支援を賜りますようお願いいたします。